

平成 27年 8月 1日

小野市議会議長 前田 光教 様

改革クラブ  
加 島 淳

## 行政視察報告書

先般、実施しました 会派行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

記

1 視察実施日 平成 27年 7月 28日（火）～平成 27年 7月 30日（木）

2 視察メンバー

加島 淳  
河島 三奈  
富田 和也

3 視察先及び調査内容

- (1) 千葉県木更津市（人口：約 13 万 2 千人、面積：230.73K m<sup>2</sup>）  
学校給食センターについて  
木更津市給食センター
- (2) 千葉県南房総市（人口：約 4 万 1 千人、面積：230.22K m<sup>2</sup>）  
道の駅とみうら枇杷倶楽部について
- (3) 千葉県鴨川市（人口：約 3 万 5 千人、面積：191.30K m<sup>2</sup>）  
小中一貫教育について  
小中一貫校 長狭学園

## 4 調査結果

### 【第1日】

千葉県木更津市

人口：約13万2千人、面積：230.73K $m^2$

### 《視察項目》

学校給食センターについて

木更津市給食センター



(学校給食センター)



(施設見学)



## 〈視察内容〉

- 1 給食センター見学
- 2 食物アレルギー対応食における保護者ニーズと学校の現状について
- 3 食物アレルギー対象児童・生徒の受け入れ準備等について
- 4 ランニングコスト及び給食費などの諸経費について
- 5 施設の配置について
- 6 栄養士の業務について
- 7 学校給食センターの運営組織変更について

## 〈所 感〉

「木更津市給食センター」は、木更津市初の PFI 事業として 2009 年 4 月に稼働を開始した。中学校給食の完全実施と学校給食の水準向上を目指し、安全で質の高い給食の安定した提供を行っている。

同施設は床を乾いた状態で使用するドライシステムや、HACCP（ハサップ）の概念に基づく衛生管理を可能とするよう、汚染作業地域や非汚染作業区域を明確に区分している。

食物アレルギーの対応は、

- ①除去食による対応（表示義務のある 7 品目）
- ②詳細な献立表による情報提供対応（7 品目＋推奨表示のある 20 品目）
- ③完全弁当対応（給食での対応が困難な場合や、アナフィラキシー症状が重篤な場合には、家庭より弁当を持参）

安全・安心な給食を提供するために、代替え食の対応は実施しない。また、飲用牛乳・パンについては減額措置をとっており、個別に給食費の計算を行っている。

アレルギー対象児童の受け入れ準備は、就学時健康診断で「食物アレルギー調査」を行い、その後 3 者面談を実施する。現時点でのアレルギー対応者は 116 名。

PFI 事業（15 年契約）のセンターの建設費は 14 億 3800 万円。運営管理費 2 億円（年間）、モリタリング支援業務委託費 104 万円（年間）、光熱費 4,993 万円（年間）出納管理システム管理費 108 万円（年間）。

同市の給食施設の配置については 3 方式あり、学校給食センター（PFI 方式）10 校、自校親子方式（直営）6 校、（委託）14 校、自校単独方式（直営）1 校、（委託）1 校。自校親子方式とは自校分ともう 1 校分をつくる方式。直営方式は、農村部が主。

栄養士の業務は・献立の作成・食材の検収・調理指示・食育活動の実施・給食時間の教室訪問・食物アレルギーに関する保護者面談・生活習慣病等に関する保護者面談。

学校給食課は、従来給食センターが所管していた、学校給食費の賦課・徴収の強化、学校給食市全体の運営方針の策定、食物アレルギー対策の強化を図るため、平成 27 年度より新設された。

## 【第2日】

千葉県南房総市

人口：約 4 万 1 千人、面積：230.22K m<sup>2</sup>

### 《視察項目》

南房総市の観光について

道の駅とみうら枇杷倶楽部について



(道の駅枇杷倶楽部外観)



(枇杷倶楽部にて)

### 《視察内容》

南房総市の観光について

- 1 南房総市の観光資源
- 2 南房総市の観光推進体制
- 3 観光の位置づけ
- 4 観光プロモーション

- 5 観光集客システムの展開
- 6 新たな観光プロモーション
- 7 観光情報発信
- 8 主な観光施策
- 9 観光客の動向
- 10 観光入込客数の推移
- 11 宿泊客数の推移
- 12 市内8か所の「道の駅」
- 13 主な観光イベント

#### 道の駅とみうら枇杷倶楽部について

- 1 施設紹介
- 2 体験紹介
- 3 施設概要
- 4 施設の運営組織
- 5 富浦町とのかかわり
- 6 枇杷倶楽部の取り組み
- 7 オリジナル商品開発
- 8 観光農業
- 9 道の駅の連携
- 10 道の駅と地域の連携
- 11 文化事業
- 12 情報発信・道の駅効果
- 13 (株)ちば南房総



(びわソフトクリーム)



(枇杷倶楽部裏庭)



(道の駅おおつの里)

## 《所 感》

7つの町村合併により、平成18年3月に南房総市となる。東京湾アクアラインの開通により、首都圏近郊からの移動時間1時間余りと短くなった。

「ひと・ゆめ・みらい 地域で創る魅力の郷 南房総」を将来像にまちづくりに取り組み、「観光地南房総」のブランド化を目標に掲げている。

民宿や旅館、ホテルと行政、道の駅が協力して観光商品を創り出す取り組みには、農業や漁業、林業交通事業者など様々な業種の参画が広がりを見せはじめている。

同市の主な観光資源は、皇室に献上する「房州琵琶」、温州ミカン、沿岸小型捕鯨基地、サーフィン、海女文化、アワビ・サザエ等があり、南房総エリア全体では、道の駅、花、海水浴場、ハイキング、農業・自然体験、史跡・文化財、温泉などの資源がある。

観光推進は商工観光部内に、「商工課」と「観光プロモーション課」があり、商工課は、市の商工会・観光協会と連携を取りながら、主に商工業の活性化と新産業の育成、戦略的企業誘致、商業の活性化に取り組んでいる。

観光プロモーション課は、観光協会と連携しながら、観光交流拠点である「道の駅」の機能強化や施設再編のサポートにあたっている。

道の駅とみうら枇杷倶楽部は、平成5年に開設した千葉県初、全国第1回目指定の道の駅。「道の駅グランプリ2000」で最優秀賞を受賞した。開設当初の運営は文化・地域振興・情報化については富浦町役場（現南房総市）の枇杷倶楽部課が担当。営業・農園管理については町全額出資の「株式会社とみうら（現(株)ちば南房総）」が担当。単年度収支は黒字、累積赤字も無く、南房総市内への地域波及効果は約2億4千万円。平成25年10月1日に南房総市内の第三セクター2社と合併し、「株式会社ちば南房総」と社名を変更した。（代表取締役社長 南房総市長）

加工事業は「小さくてもプライスリーダーに」を目標に、市場に出荷できないが希少価値のある特産の枇杷を加工し、商品開発を進めている。約 30 アイテムを開発済。

文化事業においては、自治大臣表彰を受けた「人形劇の郷づくり」事業をメインに、地域の有名人を招へいし、「枇杷倶楽部茶論（サロン）」、町内の隠れた名所をたずねる「ウォッチング富浦」をそれぞれ毎月開催。平成 12 年度は「枇杷倶楽部ゼミ」で南総里見八犬伝語部講座と枇杷栽培講座を開講。

観光農業は、観光客の誘致と栽培研究のために、枇杷倶楽部は直営の農場を持つ。面積は約 2ha、うち温室は約 1 万 2 千㎡。栽培しているのは極楽鳥花、金魚草、ポピー等の花と、露地枇杷、温室枇杷、マスクメロン、イチゴなどで、年間約 10 万人の体験型観光客を受け入れている。また、枇杷の研究員を配置し、品種改良や栽培技術を研究するとともに農家への技術移転を進めている。

市域を超えた、道の駅の連携をとっている。（安房道の駅連絡会）

南房総市 8 駅、館山市 1 駅、鴨川市 1 駅、鋸南町 1 駅。

11 駅で道の駅のパンフレットを作成し（平成 17 年）各駅オリジナル商品販売も行っている（平成 20 年）。

また、道の駅と地域の連携として名刺サイズの地域の店舗や名勝地等のポケットパンフレットを作成し道の駅の入り口に置き、観光客への情報提供に努めている。

視察の後、枇杷倶楽部のレストランで商品開発された「枇杷カレー」を食した。

レストランのメニューは豊富で、各テーブルには千葉の伝統産業である「うちわ」が置いてあり、道の駅のおもてなしの心を感じた。

### 【第 3 日】

千葉県鴨川市

人口：約 3 万 5 千人、面積：191.30K㎡

### ≪視察項目≫

小中一貫教育について

小中一貫校 長狭学園



(統合型小中一貫教育 長狭学園)



### 《所 感》

鴨川市の小中学校は、各中学校区の特徴を活かした小中一貫教育（分離型・統合型）に取り組んでいる。

同市で1校ある統合型小中一貫校である「長狭学園」で視察調査を行った。

出席者は、鴨川市議会議長、文教厚生常任委員長、学校教育課長、同主任管理主事、指導主事、長狭学園校長、議会事務局長の7名。



長狭学園は、平成 21 年 4 月 1 日に主基小、吉尾小、大山小を統合し、長狭小学校が開校、長狭中学校とともに小中一貫校「長狭学園」を開設。同年 9 月 1 日統合型一貫校をスタートした。

同地域は鴨川市の西部、旧長狭町に位置し、南北を山に囲まれた平地にあり、「長狭米」の産地として知られる。各機関の支所や病院があり、教育環境は整っている。地域や保護者の教育に対する関心は極めて高い地区。

市内各小中一貫教育の校区割、特色は以下の表の通り。

中学校区	小学校	特色
鴨川中学校【分離型】	江見小・太海小・曾呂小・鴨川小・東条小・西条小・田原小	H23.4 開校 ・教職員の交流推進により、情報の共有化・共通実践の探究 ・教員相互の授業参観
安房中学校【分離型】	天津小・小湊小	H17.4 開校 「学力向上拠点形成事業」を基盤とした継続研究
長狭学園【統合型】	長狭小	

長狭学園の特色は、小中一体型施設での「統合型一貫教育」の推進。

1 年生から 9 年生、徒数 257 名 特別支援 18 名 教職員数 45 名

①9 年間の学びを発達段階から、前期 4 年・中期 4 年・後期 2 年に大別し、教育活動の連続性・系統性を図る。

②5.6 年生からの教科担任制、50 分授業の導入や児童・生徒会活動から、小中のスムーズな移行を図る。

③TT 授業や少人数指導、小中の枠をこえた指導を組み入れ、よりきめ細やかな指導体制から、学力や体力の向上を図る。

④指導法の工夫改善に努め、「自分の言葉で表す活動」をすべての教科領域で実践する。

⑤ドリル時間（チャレンジタイム）を日課に位置づけ、「基礎・基本」の定着を図る。

⑥朝読書を日課に位置づけ、「生きる力」「豊かな心」「国語の読解力」等の育成を側面から図る。

考え方・視点として

1 一貫校のメリットを生かし、すべての教職員が「長狭学園」の児童生徒の教育活動に携わる。

2 以下の学年・教科の授業は、原則としてつぎの方針で指導にあたる。なお、前期においては、可能な限り学級担任が指導に加わる。

- ①国、算・数、理科、英語の授業は、複数の教員で指導する。
- ②小学部の技能教科については、可能な限り教科担任による指導とする。
- ③特別支援学級においては、学習する児童生徒の人数に応じて複数の教員が指導にあたる。
- ④小学部の外国語活動については、担任と英語の免許をもつ教員及び ALT の 3 人体制で指導する。
- ⑤算数・数学については、少人数指導を積極的に取り入れる。

- ・通学方法は、スクールバス。幹線道路を 2 方向から児童生徒を集める。
- ・中学校は自転車通学。
- ・グラウンドは県下一の面積で、緑化がされていた。メンテナンスは乗用芝刈り機で教職員がすすんでやるとのことで、問題はない。クローバーなどの雑草がほとんど。
- ・校長室で説明を受けたが、廊下側は全面ガラス張りであった。
- ・部活は 5 年生から参加できるが、小学校行事の関係で実質は 7 年生から。
- ・7 年生から制服着用。
- ・高学年の低学年に対するいじめはないが、同学年ではあるのでは・・・とのこと。
- ・不登校児童生徒は 7 年 8 年 9 年生に各 1 名。
- ・運動会は 1 年生から 9 年生まで合同で開催。

平成 27 年 8 月 13 日

小野市議会議長 前田 光教 様

改革クラブ

河 島 三 奈

## 行政視察報告書

先般、実施しました改革クラブ会派行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

### 記

**1 視察実施日** 平成 27 年 7 月 28 日（火）～平成 27 年 7 月 30 日（木）

**2 視察メンバー**

加島淳議員 富田和也議員 河島三奈

**3 視察先及び調査内容**

(1) 千葉県木更津市（人口：約 13 万 3 千人、面積：約 138.73 Km<sup>2</sup>）

**給食センターについて**

座学として木更津市給食センター内において給食センター長及び学校給食課の課長、栄養士から説明を受ける。

- ・給食センター事業概要、事前質問への回答など

(2) 千葉県南房総市（人口：約 4 万 1 千人、面積：約 230.22 Km<sup>2</sup>）

**道の駅とみうら枇杷倶楽部について**

現地視察、座学にて事業の説明を受けその後、施設内を見学。

観光プロモーション課永田主事、(株)ちば南房総統括部長鈴木さんより事業について説明をうける。

(3) 千葉県鴨川市（人口約 3 万 5 千人、面積約 191.30 Km<sup>2</sup>）

**小中一貫教育について**

**4 調査結果**

**【第 1 日】**

千葉県木更津市

人口約 13 万 3 千人 面積 約 138.73 Km<sup>2</sup>

## 《視察項目》

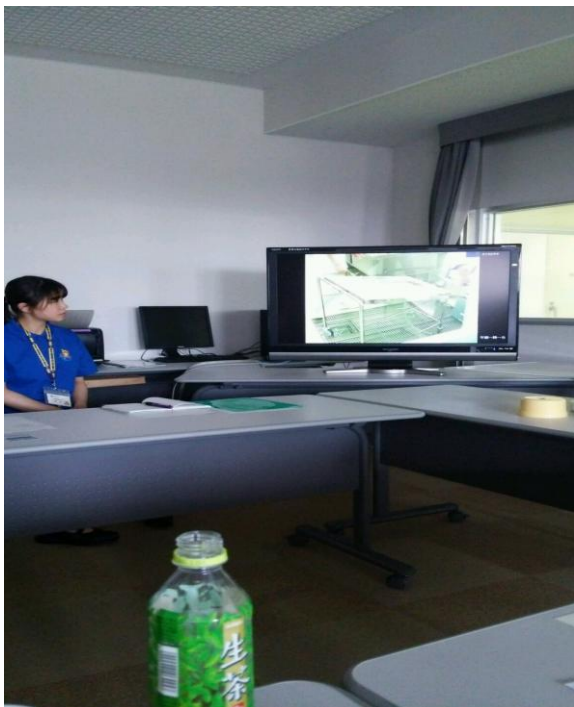
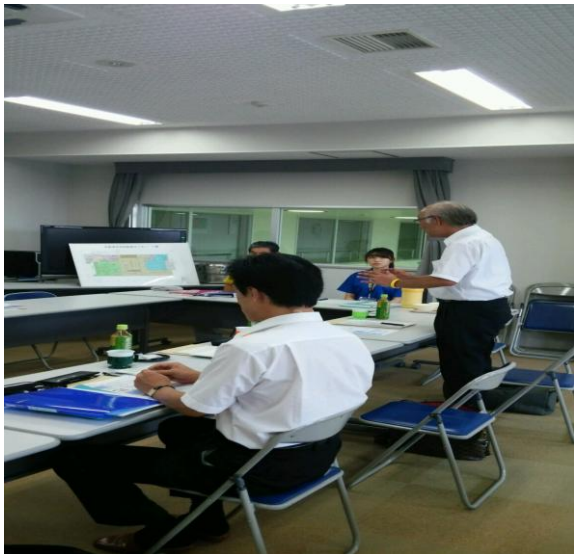
学校給食センターについて

## 《視察内容》

市は徐々に人口が増えている稀有な自治体であり、小学校の建て替えに伴い、一緒に建てることになった。民間のノウハウを利活用するPFI方式を導入しており、施設設備も最新の機器を導入している。トイレも座ったまま服を触る前に手が洗えるように、低い位置に手洗いがあつたり、食材と人の交差汚染を防ぐためにフルドライ式（床を濡らさない）作業区分を色分け、服も変えるように動線をわけている。また、小学校、中学校で献立を変えることで調理器具の回転率を上げるように工夫されている。稼働してから5年になるが実に綺麗に保っているが、日々の動線ではなく、定期的な大掃除の時に、動線が不便なところが出てき、事務所の手狭さとともに問題点になっている。現在5400食を供給しているが近い将来小学校の生徒が増加することが予想され、この給食センターだけでは対応できなくなる可能性があることから、第2給食センターの建設が必要になると考えている。木更津市では小学校15校、中学校13校があるが、給食センターが稼働するまでは牛乳給食だけの所が3か所ありお弁当が必要だった。前教育長のこだわりで給食には批判的だったが、教育長が変わったことで、市内全学校給食が実現したアレルギー対応に関しては、除去・詳細な情報提供対応・完全弁当対応の3指針で対応し、代替え食品は提供しない。これは安全面に留意しての処置である。また、食物アレルギー対応のためのガイドラインを作成、定期的に見直しをする予定。食材に関しては、市長の強いこだわりで給食には市内の野菜などで調理をする地産地消を目指している。ただ給食で使用するには一定の数量と質が求められるため、実現には多大な努力を要する。

## 《所 感》

アレルギー対応食の代替え食材を使用しないというやり方は、大きな市ならではと感じた。対応児童の数も100人を超すと代替え食を用意するのも大変だし、児童・生徒の自分の体に対する危機意識にも訴えられるのだと考える。小野市の近隣の多可町では、代替え食品を用意するので、児童・生徒間の公平性は保たれるが、危機意識と食育、主にアレルギーに対する知識などの育成にはどう影響するのかと考えさせられた。栄養士の対応、児童生徒の保護者への聞き取り作業などで、相談など「話を聞きとる力」が必要になると思うが、木更津市のガイドラインでは、栄養士が聞き取るのではなく、記入用紙に保護者が直接書き入れるようにすることで、聞き逃しのリスクを軽減している。目からうろこの対応だった。今後小野市の給食センター新設に伴って、建物の動線や、アレルギー対応に伴うラインの増加によるソフト面のシステムをしっかりと、みていかなければと感じた。



給食センターは見学ができるようになっており、二階のガラスばりの廊下から、調理現場が見られるようになっている。

また、見学者用に施設紹介 DVD も制作しており、調理に対する理念や、食材の選定などもわかりやすく紹介されていた。

## 【第2日】

千葉県南房総市

人口 約4万6百人 面積 約230.22Km<sup>2</sup>

### 《視察項目》

道の駅とみうら枇杷倶楽部について

### 《視察内容》

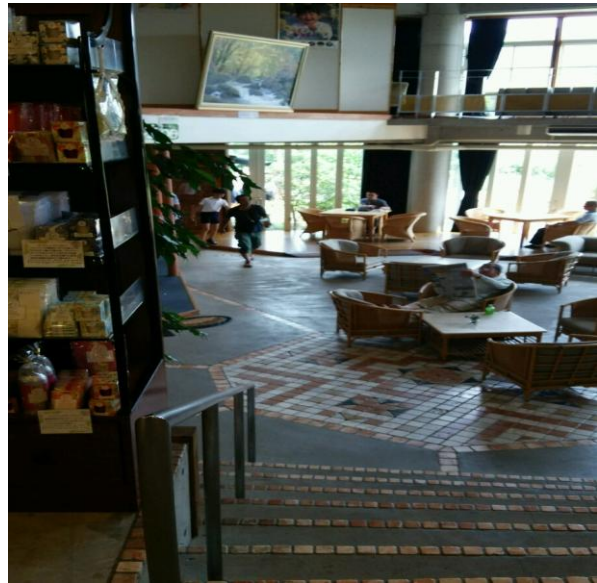
とみうら枇杷倶楽部は市の出資が100%の第3セクターであり、株式会社南房総と

いう会社を設立し、運営している。南房総市には8か所の道の駅があり、そのうち4か所の施設と1つの県の施設をこの会社が運営・管理をしている。地域の商業振興のため、平成5年に開設され、道の駅としては同4月日本第1号として登録された。枇杷倶楽部に関しては、設立当初地元商店の反対が大きかったため、農産品などは、扱わず枇杷の加工品を主力に商品展開をしている。特に枇杷ソフトクリームが売れ筋で、一日1000個、年間8万個の売り上げを誇る。施設内には、アトリエ、会議室、売店、カフェ、ギャラリーなどのほかにアイスクリーム工房、食品加工所（一般・業務用）があり業務用加工所では特産品の枇杷の第一次加工までを担い、それを県外の専用施設で枇杷の加工品にして売店で売るという形態をとっている。できればその第二次加工を地元のお店に発注をしたいと考えているようだが、できる業者が地元にない事が残念らしい。また、運営形態としてエコミュージアムの概念・地域全体を観光資源としてとらえること、を基本に農業体験、歴史、景観と食事を組み合わせ近隣の市町村の小さな資源もまとめた「一括受発注システム」を構築、観光会社に販売している。また、特産品の枇杷に関してオリジナル商品の開発研究に力を入れ、規格外品の枇杷や、廃棄していた枇杷の葉を使って、お菓子などを開発、枇杷の種も乾燥、生と二種類販売し、利益を生み出している。

第3セクターとはいえ株式会社なので、利益が出れば配当金が発生するが、昔は大きい利益が上がっていたので、市に寄付したり、内部留保にしていたり、設備投資にまわすことができたが、最近は類似施設も増え、売り上げも減少傾向にあるので、寄付はしていない。メンテナンス分の蓄えで終わっている。平成の大合併で7町村が合併して南房総市になったので、道の駅も8か所あり、旧町のカラーがいまだ影響が大きく、管理会社にとっては少しやりづらいところがあるらしい。

## 《所 感》

規模は全く違うし、形態も違う、小野市には道の駅はないけれど、サンパティオおのが比較対象になるし、駅に設置してあるコミュニティレストランも比較対象になる。特に地域全体を観光資源として一貫性を持たせる取組は大変参考になると思った。少し気になるところは、道の駅として人気が出てくると、その周辺にある民間の施設が利益をと集客を求めて展開をはじめるところで、年月が経てば経つほど、新しい施設に客は流れるので、どのようにそれをうまく収めるかにかかってくると思う。視察当日も小学生の子達が社会見学か何かに来ていたので、そういった教育の面にも協力を惜しむことなく、システムを広げて行くことができれば、もっと良くなって行くのではないかと思った。合併の町特有の地域感カラーの問題は長い時間がかかるだろうと思う。いずれにせよ、これからも注視していくに値する施設だと思った。



### 【第3日】

千葉県鴨川市

人口 約3万5千人 面積 約191.30Km<sup>2</sup>

#### 《視察項目》

小中一貫校について

#### 《視察内容》

鴨川市の小中学校の一貫教育のあり方について、統合校舎の長狭学園にて座学で説明を受けたあと、施設内を見学させていただいた。鴨川市内では、統合校舎一校と分離型一貫教育に別れ、分離型では、中学校区での一貫教育推進になっていた。分離型では、

小野市の方針と変わらず、中学校の専門生徒、小中学校においての教育の室を統一するべく、教諭同士の連携など、同じような取組に感じた。初めは、小中一貫教育への反対もあったようだが、当時の教育長の強力なリーダーシップにより推進され、現在では、好意的に受け入れられているようである。

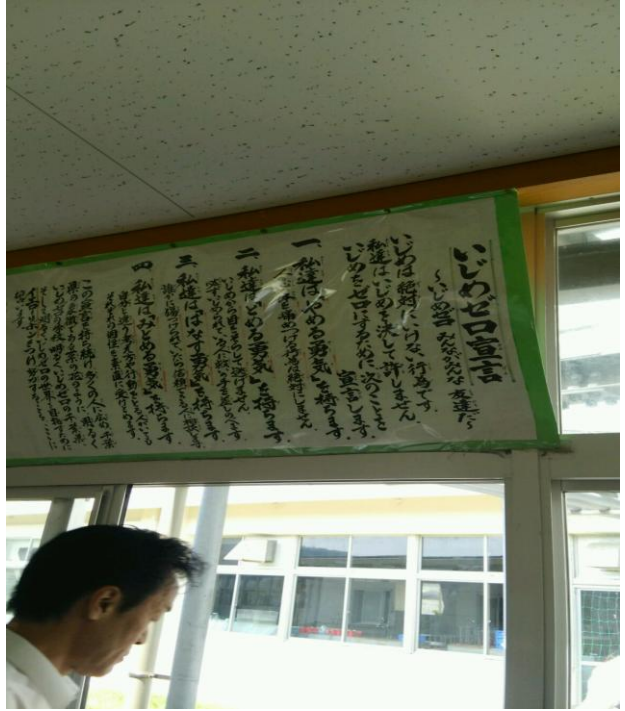
当初の目的として、6歳～15歳までの9年間における教育構成を考え直し、いわゆる中一ギャップへの対応により、児童・生徒の心の負担を軽くすること、生徒数の減少による、体験学の不足への対応、小中教員の連携や、相互の関係性の構築などを高めようとの狙いだが、重要な原因には、少子化における生徒数の減少が否めない。

地域とともに歩む教育を目指して、平成18年から検討委員会を立ち上げ、(資料別紙)議論を重ねて、理解を深めていった。また「ふれあい研修」と名づけ、各小学校、中学校の教員が集まって月1回程度の研修の場を設け、児童・生徒の望ましい生活習慣などの事項を話し合っている。また小中相互に授業を参観するなどを行い、児童・生徒の現状把握などに努めている。課題としては諸処あるのだろうけれども、特筆するべきところは、分離型の学校などで教員同士の連携をとるにしても、集合できる日程を調整することが難しい所である。

## 《所 感》

鴨川市、小野市に関わらず、学校というところが地域の拠り所なのは、確かな話で学校がハード面でなくなるというのは大きな問題だと思う。人口の分布自体が変化してしまうので、特に地域住民とよく協議をした上で進めていかなければいけないと感じた。小野市の場合は、教育のシステム自体は、鴨川とそう違いはなく、目的も目指すところも同じだと思うし、これまで通りに推進してゆくことに何ら問題はないと思う。ただ施設の問題はよく考えなければいけないところで、国策でもあることから、これから何らかの補助策も出てくるだろうし、その後の「まちづくり」にも関係してくる事例だと思うので、市民皆でよく協議をしていかねばならないと思う。その際、重要なのは、子のあるなしに関係なく子育て世代、地域住民、これから保護者になる若者世代、そして当事者である子供達の観点が必要になってくると思う。それらの意見をどのように集約するかが大きな課題であると思う。





平成27年8月4日

小野市議会議長 前田光教様

改革クラブ  
富田和也

## 行政視察報告書

先般、実施しました 改革クラブ 行政視察の結果について、下記のとおり報告いたします。

### 記

1 視察実施日 平成27年7月28日（火）～平成27年7月30日（木）

2 視察メンバー

◎加島 淳 ○河島三奈 富田和也

3 視察先及び調査内容

- (1) 千葉県木更津市（人口：133,605人、面積：138.73K㎡）  
学校給食センターについて  
木更津市給食センター
- (2) 千葉県南房総市（人口：40,634人、面積：230.22K㎡）  
道の駅とみうら枇杷倶楽部について  
道の駅とみうら枇杷倶楽部
- (3) 千葉県鴨川市（人口：33,944人、面積：191.30K㎡）  
小中一貫教育について  
鴨川市立長狭学園

## 4 調査結果

### 【第1日】

千葉県木更津市

人口 133,605人 面積 138.73 Km<sup>2</sup>

(財政力指数 0.81% 経常収支比率 89.2% 実質公債費比率 4.9% 将来負担比率 56.0%)

### ≪視察項目≫

学校給食センターについて

木更津市学校給食センターについて

### ≪木更津市の概要≫

昭和30年代から始まった京葉臨海工業地帯の発展に伴い、民間宅地造成等の開発により市街地の拡大、交通網の整備により人口も増加中、今日、首都圏整備計画における副次核都市として、多極分散型国土形成法においては業務核都市として位置付けられている。都市地区部と直結する東京湾アクアラインをはじめ、館山自動車道、首都圏中央連絡自動車道の開通により広域幹線道路網の結節点として交通利便性が飛躍的に高まり、将来都市像である「ひとにやさしく、環境と調和し、誇りに満ちた創造のまちきさらづ」をめざし、市政を推進している。

### ≪視察内容≫

木更津市学校給食センターは木更津市初のPFI事業として、平成21年4月に稼動。これにより中学校給食の完全実施と、学校給食の水準向上をめざし、安全で質の高い給食の安定した提供が可能となる「PFI事業」について調査・視察する。

木更津市学校給食センターの概要について

施設名 木更津市学校給食センター

所在地 木更津市潮見2丁目13番地1



### 事業概要

①契約者 木更津教育サービスPFI株式会社

②PFI契約期間 平成36年3月31日(15年間)

③建設費用 14億3千8百万円(年間約2億の返済)

④維持管理運営費 総額約29億9千8百万円

⑤整備内容 (施設の形式)

HACCPの概念を取り入れた施設設備を採用。汚染作業区域と非汚染作業区域を明確に区分し、各部屋は壁やカウンターにより仕切られ随所にパススルー方式を導入。調理機器類はドライシステムに対応。炊飯施設はなく、米飯、パン、牛乳等は、供給事業者より給食センター配食校へ直接納入。献立方式は、小学校、中学校用の2種類で、アレルギー対応は専用調理室で除去食による対応。

上、配送車は計7台PFI方式で市は管理していないとのこと

## 事業運営

- (1) 稼働開始日 平成21年4月9日(木) \*初日の食数5,160食
- (2) 配食数及び配食校 ・食数 約5,400食/日  
配食校・小学校6校 中学校4校
- (3) 給食センター年間稼働日数 199日  
各学校(学年毎)における年間基準日数 191回  
給食費 小学校・年額48,400円(一食/253円)  
中学校・年額58,300円(一食/305円)

(調理室の様子)



- (4) 平成21年度の組織改正により、教育委員会に新たな教育機関として「木更津市学校給食センター」を新設し学校給食センターの総括的な管理運営を行う。給食センターは、配食校10校への給食提供、食物アレルギー対応、食に関する指導のほか、市内全小中学校の給食費収納管理、食材料の支払い事務等を行う。従事する職員は5名で、事務担当は所長を含め2名、栄養士は県職2名、市職員1名の計5名
- (5) 食材調達等・学校給食用食材の調達にあたっては、安全・安心で良質な品質を安定的に納入できるよう選定。また、一部、木更津産野菜の限定指定を行うとともに、地元産食材を献立に採り入れるなど、地産地消を考慮した献立を実施。及び地元事業者育成の観点より、食材料のうち3分類(肉、豆腐、野菜)の調達を市内業者に限定。

## 徹底した衛生管理：HACCP（ハサップ）

床を乾いた状態で使用するドライシステムや、HACCP（ハサップ）の概念に基づく衛生管理を可能とするよう、汚染作業区域や非汚染作業区域を明確に区分している。

## 献立

献立例⇒

小学校・中学校用に2種類の献立を用意している。  
またアレルギーの原因となる食品を入れない除去食に対応した専用調理室を備えている。



## 食物アレルギー対応食における保護者ニーズと学校の現状について

除去食による対応	表示義務のある7品目の対応に限る
詳細な献立表による情報提供対応	表示義務のある7品目と推奨表示のある20品目の対応に限る（合計27品目）
完全弁当対応	給食での対応が困難な場合やアナフィラキシー症状がある場合には、家庭より弁当を持参

\*代替食の対応は無 \*飲用牛乳、パンは減額措置をとっており個別の給食費の計算となる

### 食物アレルギー対象児童・生徒の受け入れ準備について

就学時健康診断にて、食物アレルギー調査を実施。学校側と保護者による3者面談を実施し「医師の診断書」をもとに詳細なアレルギー状況を聞き取り、食物アレルギー対応の実施について協議する。

### 食育活動の拠点をめざす。

料理体験コーナーや見学スペースを整備している。

### 《今後の課題》

現在、木更津市は、人口増に転じているため、新設の小学校を予定するなど既存の学校給食センター（6,000食）だけでは食数の確保が困難になりつつあり、第2の拠点「学校給食センター」が求められている。また今後は「地産地消」を考慮し、地元産食材野菜供給率100%を目指すが課題も多いとのこと。

### 《所 感》

「PFI方式」による、建設・維持管理・調理業務・衛生管理・給食運搬・回収・洗浄等業務「HACCP」の分担がなされており、民間の活力を活用したPFI方式で市としては財政的メリット等もあるとのこと。給食30分前には校長先生による「検食」、食物アレルギー生徒へのチェックシート票による徹底した調査など、大変参考になる視察研修になった。小野市も地域性を研究しながら適しているあり方を検討してみても感じた。

### 【第2日】

千葉県南房総市

人口 40,634人 面積 230.22Km<sup>2</sup>

(財政力指数 0.36% 経常収支比率 80.8% 実質公債費比率 6.8% 将来負担比率 -)

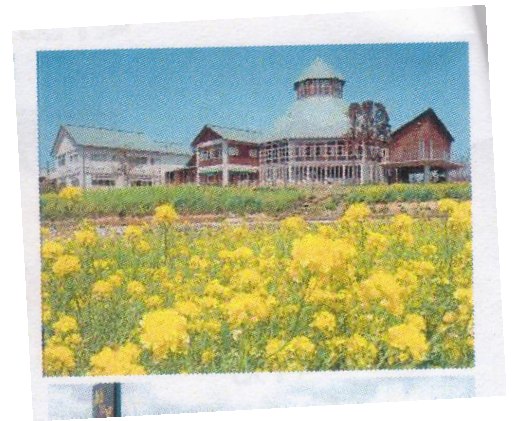
### 《視察項目》

道の駅とみうら枇杷倶楽部について

道の駅とみうら枇杷倶楽部について

### 《南房総市富浦町の概要》

南房総市は、平成18年3月20日に富浦町、富山町、三芳損村、白浜町、千倉町、丸山町、和田町の6町1村の合併により「南房総市」として発足した市である。今回訪れた富浦町は千葉県房総半島の南西端に位置し、ビワを中心とした農業、豊かな磯資源を活用した漁業、及び、夏季民宿、海水浴客の観光業の中心として発展してきた地域である。



しかしながら、海水浴客の減少や若年層を中心とした人口が減少しており、後継者不足が大きな課題となっていた。枇杷倶楽部を通じて、地域の資源（農家、農産物など）を効果的に管理することにより、現在は、花摘み、イチゴ狩りなどの観光業も展開することができた。結果として、冬期にも観光客をひきつけることが可能となっている。

### 《視察内容》 \*地域活動の経緯

富浦町が1993年にプロジェクトチームを立ち上げ、「産業と文化の拠点」として、道の駅を富浦町によって建設した。その後、枇杷クラブは、千葉県初の「道の駅」として選ばれた。

道の駅のショップやカフェには枇杷倶楽部が厳選した名産品や軽食を揃え、極楽鳥花、金魚草やポピーなどの花や、大粒のビワ、イチゴなど、富浦が誇る産物の摘み取りや食事の案内もある。総面積14,000㎡の敷地内には、四季を通じて、ポピー、ガーベラ、金魚草、ストレリチアなど美しい花々が露地栽培、温室ハウス栽培されている。

「富浦町」「(株)とみうら」と「枇杷倶楽部」によって運営されているこれらの組織は、道の駅の運用・商品開発（6次産業）・地域の農家・民宿・小売業者・商工会・農協と連携し、町の資源をトータルに管理され、道の駅を中心とした観光力、集客力向上対策の成功例について調査・研修した。

### 《合併後の南房総市としての取り組み》

「ひと・ゆめ・みらい 地域で創る魅力の郷 南房総」を将来像にまちづくりに取り組み「観光地南房総」のブランド化を目標にその彩りを加えてきた。

様々な業種の参画が広がりをみせはじめ、首都圏の観光事業者やネットエージェントと連携した観光商品の販売やキャンペーン展開、受注態勢への意識改革など各業種の役割や、得意分野のつながりが、少しずつ集客効果を現しはじめている。

こうした取り組みは、各団体の表彰にも現れ、

H12年3月：「道の駅グランプリ2000」最優秀賞を受賞

H14年：「過疎地域自立活性化優良事例 総理大臣賞」

H20年 : 「農商工連携 88 選」(経済産業省)

H21年 : 「ハイサービス日本 300 選」(サービス産業生産性協議会・牛尾会長)

H22年2月 : 「農林漁家民宿おかあさん 100 選」(農林水産省、観光庁)

H22年12月 : 東日本旅客鉄道(株)千葉支社から南房総市商工観光部が感謝状

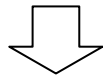
●地域ぐるみの取組みが育まれてきた

目標値	
◎年間入込客数	506万人(H20) ⇒⇒560万人(H26)
◎年間延べ宿泊客数	66万人(H20) ⇒⇒75万8千人(H26)

《新たな観光プロモーションの取組み》

①宿泊施設再生『家族時間の宿』

いつ来ても、誰と来ても、どの宿に泊まっても安心な厳選民宿



②民間企業との新たな仕組みづくり

宿泊予約の導線を充実し、知名度アップ

③南房総市の観光情報発信

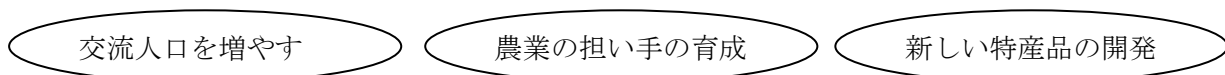
『南房総いいとこどり』⇒ 南房総市観光ホームページ

アクセス数 H19年 2,037件~H25年3,033件

《枇杷倶楽部の主な取組み》



《今後の課題》



アクアライン開通にともない東京からも一日日帰りの圏内であり、道路が整備されることにより、素通りされる可能性が高まった。

【道の駅等】

名 称	特 徴	住 所	電話番号
道の駅富楽里とみやま	ハイウェイオアシス 新鮮野菜と魚介の直売	南房総市二部1900	57-2601
道の駅とみうら枇杷倶楽部	枇杷グッズ(びわソフトクリーム) 全国道の駅グランプリ最優秀賞	南房総市富浦町青木123-1	33-4611
道の駅おおつの里花倶楽部	花摘み(4,000坪の敷地と温室) いちご狩り	南房総市富浦町大津320	33-4616
道の駅三芳村鄙の里	新鮮野菜と果物(土のめぐみ館) 酪農/乳製品(牛乳、ソフトクリーム)	南房総市川田82-2	36-4116
道の駅白浜野島崎	房総半島最南端 野島崎(白浜)灯台	南房総市白浜町滝口9240	38-5519
道の駅ちくら潮風王国	漁船のオブジェ 漁協直営など魚介類の直売	南房総市千倉町千田1051	43-1811
道の駅ローズマリー公園	ノット式庭園～ローズマリーガーデン シェイクスピアカントリーパーク ローズマリー	南房総市白子1501	46-2882
道の駅和田浦WA-O!	郷愁を誘う鯨料理、地魚、旬な野菜 南房総市8番目の道の駅	南房総市和田町仁我浦243	47-3100

《所 感》

南房総市には合併した町村にそれぞれ道の駅があったため、7つの道の駅があり、一自治体における道の駅数は全国2位で先進地域となっている。

「旧富浦町、道の駅とみうら枇杷倶楽部は『地域産業と文化の振興の拠点、情報発信基地』を目指し、町の命運をかけ町出資100%で「道の駅とみうら枇杷倶楽部」を立ち上げ、絶対に赤字は出せないという強い信念のもと担当職員、従業員、関係者たちは何度も困難にぶち当たりながら(地元同業者からの反発など、他)夢に向かって走り続けてきました」と担当者の方が当時を振り返りながら切実に語られたのが大変印象的であった。「(旧)富浦町の命運をかけた」この事業の背景にあったものは、「高い理想」、「市民を豊かにする」という行政のありかたの原点に立った施策であると考えられる。そして更なる夢・ビジョンを掲げ歩まれているスタッフの方々の姿勢と各フロアの接客は「プロ&真のおもてなしの心」が行き届いておられ大変印象的であった。

【第3日】

千葉県鴨川市

人口 33,944人 面積 191.30Km<sup>2</sup>

(財政力指数 0.53% 経常収支比率 87.3% 実質公債費比率 11.6% 将来負担比率 104.4%)

《視察項目》

小中一貫教育について



## 《鴨川市の概要》

鴨川市は旧 鴨川町・長狭町・江見町の3町が昭和46年3月31日に鴨川市として発足し各種産業間の連携を図りながらハードおよびソフトの整備が進められてきた。

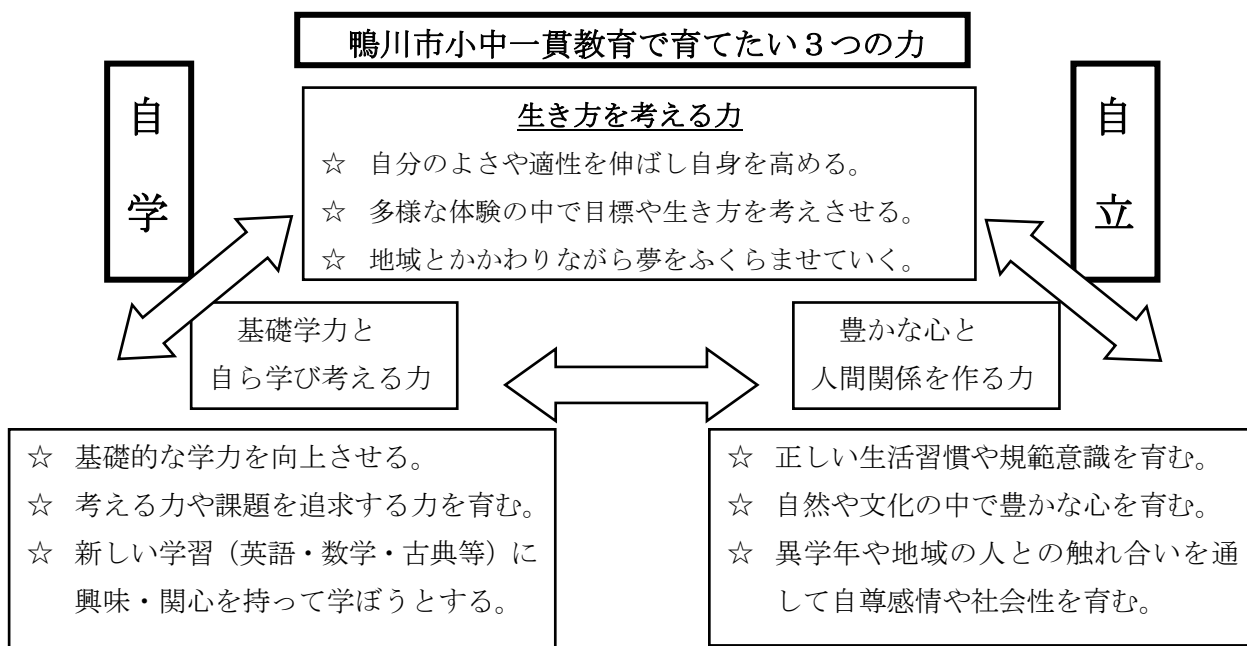
平成17年2月1日には鴨川市と天津小湊町が合併し新 鴨川市が誕生。本市は千葉県・房総半島の南東部、太平洋側に位置し、首都東京都まで約70km、県都千葉市まで約55kmの距離にあり、物資の集散地・消費地として商業活動も活発化し、また自然美に富んだ房総の観光拠点基地として発展してきた。



## 《視察内容》

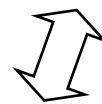
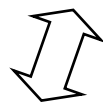
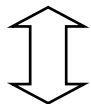
少子化により人口減少する中、義務教育9年間を見通した教育への転換が有効であるとし、少子化への対応と、社会性を養うためより良い学校教育を目指すことを目的とした小中一貫校を、千葉県内で初めて導入した長狭学園を訪れ、小中一貫校『統合型』『分離型』校 導入の背景、取り組みの内容(教育実践)、保護者、地域との連携について調査・研修した。

平成17年4月：安房東中学校（分離型）2小学校  
 平成21年4月：長狭学園校（統合型小中一貫校）3小学校  
 平成23年4月：鴨川中学校（分離型）7小学校（内3小統合）



● 6・3から4・3・2で捉えた発達区分

〔小中9年間の継続的・計画的カリキュラム〕								
小1 〔1年〕	小2 〔2年〕	小3 〔3年〕	小4 〔4年〕	小5 〔5年〕	小6 〔6年〕	中1 〔7年〕	中2 〔8年〕	中3 〔9年〕
《前期》				《中期》			《後期》	



**前期（1年目～4年目）**  
 =学びや生活の基礎となる力を身に付けて行く期=  
 ◎基礎学力や規範意識を身に付け、自分のよさや友達のよさを大切にしながら、学ぶ喜び・楽しさを知っていく鴨川っ子


**中期（5年目～7年目）**  
 =学びを追求し、人間関係を作る力をつける期=  
 ◎自分のよさや可能性を大切に、人とのかかわりを豊かにしながら学びを追求していく鴨川っ子

**後期（8年目～9年目）**  
 =学びを伸ばし自分の生き方を追及する力をつける期=  
 ◎人や社会とのかかわりの中で自分の生き方を見つめ、夢の実現に向けて学び続ける鴨川っ子

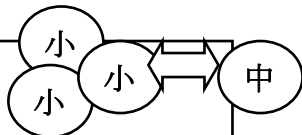
- 〔育みたい感情〕 ◎ 夢の実現に向かって学び続けることの楽しさや充実感  
 ◎ 自分も人をもかけがえのない存在と考える感情  
 ◎ この町で学び育って良かったという実感

● 2パターンによる小中一貫教育

～目指すものを共有しながらも、中学校区の特徴をいかながら実施していく～

**【統合型小中一貫教育】** 

☆同じ敷地内で小中9年間の一貫したカリキュラムのもと、計画的・継続的な教育活動を行う。

**【分離型小中一貫教育】** 

☆ 中学校区の小中学校が連携や交流を強化して特色ある一貫教育を行う。  
 ☆ 9年間の積み重ねや連続性を大事にした教育活動を行う。

《質問項目》

(1) 導入の狙いをお伺いしました。

- \* 少子高齢化による子どもの減少とより良い教育環境を創出するため。
- \* 9年間を見据えた一貫教育で、学力向上と心の負担をなくす中1ギャップへの対応、夢と希望の社会性・人間性を養う。

(2) 効果についてお伺いしました。

- \* 4・3・2に大別し、教育活動の連続性や系統性を図った一連の教育が実現した。

\*教員数が多いので各生徒への指導が手厚くできているためか、学力面は優秀であり、教科担当制を導入し教員の配置・移行が可能となった。

\*校舎増築やスクールバス導入などの初期費用を要したが、小学校3校と中学校1校が1つになったため、将来的には施設維持管理費は削減される見込み。

\*（廃校）空いた3小学校校舎を利用し、現在 幼保一元で子ども園、地区センターとして利用、私学に貸す。

### **(3) 子ども達の様子についてお伺いしました。**

\*中1ギャップはなくなった。

\*小学校3校一緒になり仲間が増えたことが嬉しい様子で、子どもたちの行動が穏やかになった。

\*学校が楽しいという多くの子どもや保護者の声、集団の中での手本となる上級生。

### **(4) 交通手段についてお伺いしました。**

\*バスによる通学、路線バスと（1台又は2台）貸切バスを併用し添乗員が同乗（原則登下校2便）

\*貸切バスは市がバス運行事業者に運行委託（25年度契約額：8,191円）

\*保護者の費用負担：無（バスの無料乗車証を児童に配布）

### **(5) 課題についてお伺いしました。**

\*「中学生」生徒数の昨対10%減とあり、結局のところ減少は避けられない

\*小中職員の文化が違うため中学教員は夕方部活、小学教員は夕方事務となり、実践を通しての更なる小中教職員の一体化、およびバランスの取れた職員構成

\*一貫校としての教育課程の実践とその見直しや会議や研修時間の確保とその効率化

### **(6) 今後についてお伺いしました。**

\*幼保一元化の教育ビジョンを掲げ、0歳～15歳までの一貫教育を目指されるとのこと。

## **〈所 感〉**

昭和22年に教育基本法や学校教育法が施行されてから60年が経ち、今、新しいことを始めるには、子ども達のより良い教育環境を創出する強い情熱を持って積極的に進めていかなくは絶対に実現できないと感じた。

小中一貫校の一番のメリットが、教職員数や学校数削減による行政改革ではなく、長狭学園の子ども達の様子やアンケート結果にも表れているように、「笑顔がふえたことや仲間が増え嬉しい、学校が楽しいという多くの子どもや保護者の声、小中学校の垣根を越え年齢にとらわれない友達が増えたこと」などから考察できるのは、社会状況の変化に対応した課題を前向きに捉え、「地域の宝」である子ども達にとってより良い環境がつけられることは地域にとってもメリットであり、子ども達にとっては最大のメリットであると考えている。